知っておきたい

「ごみの今」と「減量のヒント」

国見町では、ごみの減量に取り組んでいますが、家庭から出るごみは依然として多い状況です。特に可燃ごみの中には、本来資源として再利用できるものが多く含まれています。町のごみの現状から、これからのごみ減量につながるヒントを探ります。

この町の「ごみの現状」

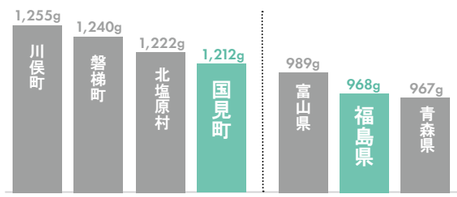
環境省が今年3月に発表した「一般廃棄物の排出及び処理状況等（令和5年度分）」では、福島県1人1日あたりのごみ排出量が968グラムと全国でワースト2位に位置しています（下図）。さらに、同調査の中で私たちが住む国見町は1212グラムと福島県内59市町村の中でごみ排出量が4番目に多いという結果が出ています（下図）。この結果は、令和元年の東日本台風や令和3年、令和4年に発生した福島県沖地震に伴う「災害関連ごみ」がその要因として考えられますが、いまだ高止まりが続いている状況のため、対策が必要です。

1人1日あたりのごみ排出量とは

1年間に町内から排出されたごみ（事務所や飲食店等から排出された「事業系一般廃棄物」を含みます）の総量を、各年度の10月1日現在の住民基本台帳人口と、各年度の日数（365 日または366 日）で割った数値のこと。

全国のごみ排出量
（1人1日あたり）

福島県内のごみ排出量
（1人1日あたり）



ごみの処分費用

町では、ごみの収集と処分場までの運搬業務を専門業者に委託しています。

また、ごみの処分は、伊達市保原町にある「伊達地方衛生処理組合清掃センター」で行っていますが、国見町のほか、伊達市・桑折町・川俣町のごみの処理を行っており、それぞれの市町から搬入されるごみの量に応じた負担金を支出しています。

ごみの運搬から処理までに年間約7140万円の多額の費用がかかっています。

1年間のごみの処分費用

7,140万円

これを1人あたりに換算すると、約8,888円かかっています。

仮に1人1日あたり100g減らすと…

（処分費） 1.3円 × （1年間） 365日 × （R7人口） 8,033人

※1gあたり0.013円で計算

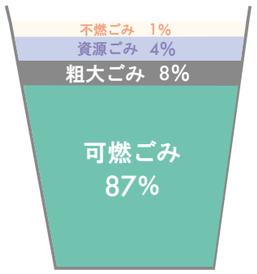
約381万円 の削減に！

ごみ減量のカギは「再資源化」

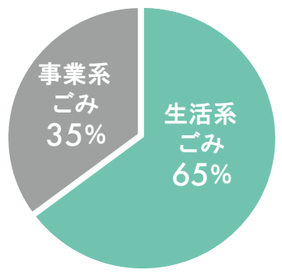
ごみは、家庭から排出される「生活系ごみ」と、会社や飲食店などの事業活動によって排出される「事業系ごみ」に分けられます。国見町では、生活系ごみが65%、事業系ごみが約35%を占めており、町全体のごみ減量を進めるためには、私たちの暮らしの中から出る「生活系ごみ」を減らしていくことが重要です。

生活系ごみの種類別内訳を見ると、可燃ごみが87%と大半を占め、粗大ごみが8%、資源ごみが4%、不燃ごみが1%となっています。この結果からも、家庭から出るごみの多くが可燃ごみとして処理されていることが分かります。

生活系ごみの種類別内訳



収集ごみの内訳



そこで、カギとなるのが、可燃ごみの「再資源化」です。生活系ごみの中には、本来は資源ごみとして分別できる紙類やプラスチック製容器包装などが、可燃ごみとして多く排出されています。資源ごみを正しく分別し、再資源化を進めることで、可燃ごみの量を減らすことができます。

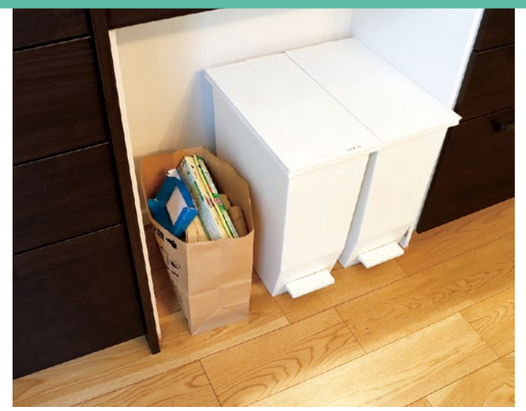
一人ひとりの分別の積み重ねが、ごみ処理量の削減や処理費用の抑制につながり、町全体のごみ減量を支える大きな力となります。

再資源化①

— おうちで取り組む再資源化 —

「紙類」を分ける。

「雑がみ回収袋」の活用



雑がみ回収袋で、紙の資源化をもっと身近に

国見町では、家庭から出る紙類の資源化を進めるため、紙類の分別を始めるきっかけとして、「雑がみ回収袋」を導入しました。

この袋は、地域の環境美化活動を支えている国見町生活環境推進員協議会が、「紙類の分別をもっと分かりやすくしたい」という思いから作成され、11月12日に国見町へ寄贈されました。雑がみ回収袋は、町内会を通じて各世帯に配布を予定しています。

この回収袋には、迷わず分別できるよう雑がみの種類のイラストが記されており、回収袋を活用しながら、「紙は資源として生かす」取り組みをこれからも広げていきます。

※「雑がみ回収袋」は、紙類の分別を始めるきっかけとして作られたもので、1度限りの配布となります。分別に慣れてきたら、各家庭にある紙袋などを使って分別しましょう。

▲「雑がみ回収袋」贈呈の様子

親子でチャレンジ！雑がみ分別

雑がみ回収袋を使って、家の中の紙類を分別してみよう！

家庭から出る紙類の資源化を進めるため、新しく導入する「雑がみ回収袋」。

今回は、町内に住む鈴木菜緒さんとお子さんの日陽ちゃんが、実際に雑がみ回収袋を使って分別にチャレンジ！

「お菓子の箱もこっちに入れよう」「これは入れていいかな？」と、親子で相談しながら楽しく分別しました。

「雑がみ回収袋」は、分別のきっかけとして用意したものです。家にある紙袋などを使って続けることができます。大切なのは、紙類を資源として分ける習慣です。家庭の中で少し工夫するだけで、大切な資源になります。まずは、身近なところから分別を始めてみませんか。

▲紙類以外の素材は取り外す

▲ごみ箱の横に紙袋を置いて、気軽に分別！

鈴木 菜緒（なお）さん・日陽（ひより）ちゃん

お菓子の箱などが資源になることを正直知りませんでした。

ごみ箱の横に使わない紙袋を置いておけば、家族みんな気軽に分別ができて、無理なく続けられそうです。お菓子の箱や工作で使った紙、ティッシュの箱などは意外とかさばるので、分別することで可燃ごみがぐっと減ると感じました。

再資源化できる紙類（例）

※紙類以外（ラミネート加工、プラ、フィルム、金具等）は必ず取り外してください。

再資源化できない紙類